

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071201390		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名	グループホーム なごみ ユニット1		
所在地	和歌山県岩出市水栖644-1		
自己評価作成日	平成28年1月18日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3071201390-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3071201390-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年2月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者がその人らしく安心して暮らせる支援を心掛けています。一人一人が居場所や役割を持てる支援やご家族の思いに寄り添い共に支えていく関係作りを努めています。地域の祭りや隣接するコミュニティーサロンへ出掛けたり、地域の方々と交流を持って頂ける機会を作っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域の中で生き生きと笑顔で暮らせる」という理念を掲げ、職員は日々唱和を続ける中で利用者の思いに沿った関わりや対応を積極的に考え、地域に溶け込んで笑顔で暮らしてもらえるように切磋琢磨しながら理念の実践に向け支援しています。隣接するコミュニティーサロンは、地域の方が集う憩いの場として開放し、喫茶店や弁当を持って訪れ、ヨガ教室、料理教室、慰問等もあり、また手芸の作品を持ち込み趣味の集いが開かれるなど多目的な活動の場となり、利用者も参加し地域の方との交流の場となっています。管理者は働きやすい環境作りを心がけ、個別ケアを大切に一人ひとりの出番や出来ることを見つけながらその人らしく自由な暮らしを支えていけるよう職員一丸となってケアに取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で生き生きと笑顔で暮らせる」を理念にし毎朝朝礼時に唱和し、スタッフ全員が理念を共有しケアに繋げている。	開設時に作られホーム独自の理念をわかりやすく簡潔に見直し、朝礼やミーティングの中で唱和を繰り返し続けることで、職員自らが理念にそったケアを利用者本位にどうすればよいか考えるようになり、利用者に寄り添い思いを受け止めケアに活かしています。新人職員にも理念に込めた思いを説明し、目に付きやすい場所にも貼っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の溝掃除やお寺の行事に参加したり、中学生の体験学習の受入を行い地域の方々との交流に努めている。	自治会に加入し溝掃除には職員が参加し、地区のお寺の花祭りや地藏盆に出かけ子供達と交流しています。中学生の体験学習の受け入れや地域の方の踊りや歌、マジックショーのボランティアの訪問があります。散歩時の挨拶や開設されたコミュニティーサロンに出向き地域の方々と共に過ごしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、グループホーム内を見学して頂いたり認知症の方への支援について話し合いや情報交換することで理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニットごとの活動報告でご利用者へのサービスの状況や職員の研修報告等を行い、参加者の方から意見や助言を受け、サービスの向上に繋げるように話し合っている。	会議は市職員、地域包括支援センター職員、区長、副区長、民生委員等の参加を得て開催しています。ユニット毎の写真を見てもらいながら利用者の状況や活動報告、地域との関わりについて等、気軽に話し合い貴重な意見を得ています。同敷地内の建物を地域に開放してはどうかの要望よりコミュニティーサロンを立ち上げ地域の交流の場となっています。	行政や地域の方の参加も得られ有意義な会議となっていますので、今後家族の都合の良い日時を検討され、会議に出席出来るよう配慮されてはいかでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回出席して頂き事業所の実情やサービスの取り組みを理解して頂いている。又機会ある毎に相談させて頂いている。	市の担当者とは毎回、運営推進会議への参加を得ており、事業所の実情も把握してもらい報告や相談事があれば気軽にできる協力関係が築かれています。市からの研修案内が届いたときはできるだけ参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修会に参加し、ミーティングや事業所内研修で身体拘束をしないケアについて話し合い、取り組んでいる。	身体拘束については法人や3事業所合同での研修会に参加し、欠席者には資料を回覧し周知しています。転倒のリスクを考えセンサーマットを使用する時には家族と相談しています。職員間で具体的な事例も含め話し合う機会が多く持たれ拘束についての理解に繋げています。玄関は施錠せず一緒に付き添い閉塞感のない暮らしの支援をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修参加し、高齢者虐待防止についてマニュアルを整備し、事業者内で研修を行い、自己チェックリストで振り返り虐待防止に取り組んでいる。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者に利用されている方がおられ、制度については理解している。 又、研修会などで学ぶ機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書について契約時に十分説明を行い理解を得ている。又、変更事項があるときには必ず同意書を交わし納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の思いやご家族の要望を受け止めケアに繋げ、事業所では対応出来ることは反映させるように努めている。	毎月の便りを発行し利用者やホームの様子を知ってもらい、面会時や電話で連絡する時などに意見や要望を聞いています。料理や裁縫等出来ることを行えるようにしてほしいとの要望には得意なことや出来ることをみつけ、好きな事をして過ごしてもらおうなど、得られた意見をサービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング以外にも職員の意見を聞く機会を作り、又日頃からコミュニケーションを図るようにしている。	月1回のミーティングや申し送りの中で意見や提案を聞き、また日常生活の中で言いやすい雰囲気作りに努めケアに活かせることは速やかに対応をしています。意見を受け休憩時間のとり方を検討し1時間の休憩がとれ気持ちを切り替えモチベーションの向上につながり、個人面談でも意見や提案を聞いて運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員が目標を持って働ける環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や法人内の研修に職員全員が参加出来る機会を作るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和歌山県認知症支援協会に加盟しており、研修に参加し、同業者との交流する機会を持ちサービスの向上に取り組んでいる。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望を聴く機会を作りご本人の思いや状態を把握し、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを十分理解し、不安に思っている事や要望等話し合う時間を持ち、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のニーズを受け止めサービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意な事や出来る事を探り、家事等に参加して頂くなどし、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族の関係性を大切にし、自由に外出したり面会して頂く事でご利用者を共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への受診や馴染みの場所へ出かける等、関係が途切れないよう支援に努めている。	行きつけの洋服屋に買い物に出かけたり、法事や外泊の際には準備の支援をし家族と一緒に過ごされています。孫の結婚式の出席を励みに歩行練習をすることで出席できた方もいます。近所の方や姉妹の面会にはお茶を出してゆっくり過ごしてもらい、電話の取り次ぎや年賀状を出すことで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者個人の性格、趣味、嗜好を把握し、ご利用者同士の関係を円滑に築けるよう支援することで、共に暮らせる関係作りに努めている。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方に対して様子を伺いに行ったり、事業所の職員と連絡を取り合うなどして関係を断ち切らないように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	小さな一言にも耳を傾け、一人ひとりの思いを把握し、その思いに添えられるよう努めている。又上手く伝えられない方には、表情やしぐさから把握したりご家族から情報を得ている。	入居前のケアマネジャーの情報を基に、家族の希望する場所で面接し、本人や家族の意向や希望等を聞いて基本情報として把握しています。入居後はアセスメントシートに家族にも書いてもらった情報も加味し、日々の関わりの中で表情やしぐさ、家族からも聞いて意向の把握に努め、困難な時は会議の中で本人本位に検討し思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話から得た情報、ご家族、以前利用していた事業所の職員から得た情報などを基に、ご本人の様子を観察しながら生活歴や生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の行動や言動から、一人ひとりの生活リズムや残存機能、又、表情やしぐさなどから心身状態の変化に注意し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いを反映し、ケース会議では職員全員が意見交換することで介護計画を作成し、それを基に統一したケアを行うように努めている。ご利用者の状態変化に伴い、その都度見直している。	アセスメントや利用者、家族の思いを基に初回の介護計画を作成し、毎月のケース会議で実施状況の確認を行い基本6カ月毎に見直し、変化があればその都度見直しをしています。見直す前にはケース会議でモニタリングと評価、再アセスメントを行い、家族の面会時やかかりつけ医には往診や受診時に意見を聞き、介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者個々に「一日の流れ」「生活状況表」を作成し、日々の食事摂取量、排泄状況、睡眠状況、ご本人の言動、又どのようなケアを行ったかを記録に残し、その情報を基に実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や希望に応じて通院介助や個々の嗜好品の買い物等柔軟な支援に取り組んでいる。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生の職場体験やボランティアの方達に来て頂き地域交流に努めている。又隣接する「なごみ庵」の催し物にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に応じたかかりつけ医の受診や通院を行っており、ご家族が同行出来ない時は職員が代行している。	全ての利用者様が今までのかかりつけ医を受診、又は往診して頂いています。月1回の受診は職員が対応し、かかりつけ医の往診を2週間に1回受けている方もいます。専門医や歯科等必要な受診は家族が付き添い、職員が支援することもあります。受診時の情報提供や結果も家族や職員共に情報を共有しています。緊急時は法人の看護師に来てもらい相談や指示、アドバイス等ももらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と連携をとり、ご利用者の状態が変化した時等、情報や気づきを伝え相談しながら健康管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係性を構築している	入院した際には、ご家族と相談しながら病院関係者に、日常の様子など情報提供し、入院中は頻繁に見舞い早期退院出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の際には早い段階からご家族や医師と相談し、事業所で最大限の対応が出来るよう関係者と共に方針を共有し支援に取り組んでいる。	契約時に医療行為ができないことや終末期ケアをしない方針であることを伝えていきます。重度になった場合やホームで出来ることと出来ないことを説明し、医師が家族に説明と意向を確認し、病院や施設の紹介しながら出来る限りの支援に取り組み、退居後も面会に行っています。ターミナルケアについての法人研修に参加することで職員は知識を身につけて重度化した利用者の対応への不安の軽減に繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修会や講習会に参加し、急変や事故発生時に対応出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を行ったり、消火器の使い方や避難経路の確認を行っている。 緊急時の連絡体制により応援要請し、早期対応できるように取り組んでいる。	避難訓練は昼夜を想定して年2回行っております。水消火器を借り使用方法をはじめ、通報、避難誘導等を利用者と一緒に行っています。消防団の立ち会いの下での訓練を3月に予定しています。法人として災害時の緊急連絡体制を整え、速やかに対応できるよう取り組んでいます。	

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応はプライバシーを損ねないよう本人の気持ちを考えて行うようにしている。	会話はその方に合わせた言葉掛けを行い、方言を使う時は馴れ馴れしくならないよう気をつけています。利用者を尊重し丁寧な言葉遣いを心がけ、命令口調や強い口調にならないよう配慮し、プライバシーや羞恥心に配慮したケアを心がけています。法人での接遇マナー研修や毎月、各ユニットで「認知症研修」を行い知識を深め、不適切な発言がある場合は職員同士で注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望が表わせるように分かりやすく説明するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見を聞き本人のペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職場と一緒に服を選んでもらい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に能力に応じ、家事に参加して頂いている。	献立は職員が在庫の食材を見て利用者に食べたい物を聞いて立て、全ての職員が調理しています。買い物はスーパーに発注し配達してもらい、時には利用者と一緒に買い物に行くこともあります。下拵えや味見、盛り付け、下膳、食器を洗う等出来ることを職員と一緒に行っていきます。誕生日や行事食の他、寿司を発注する等、食事が楽しみとなるよう工夫したり、職員も同じものを食べ会話をしながら食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「一日の流れ」に食事摂取量や水分量を個別に記入し、一人ひとりの状況把握に努めている。 定期的に栄養管理士にチェックして頂きアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きや入れ歯洗浄を行い清潔保持に努めている。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄間隔を把握し、声かけや誘導を行い、自分で出来ることは見守りながら支援していく。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレで排泄できるよう支援しています。定期的にトイレ誘導しその人に合った対応で失敗が少なくなり、夜勤帯の見守りも個々に対応し失敗が減った方もいます。職員はパットの種類の検討や使用を工夫しながら自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、朝食時にヨーグルトを食べて頂いている。 又、ご利用者の状態に合わせて飲み物を工夫したり水分摂取に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人に合ったタイミングや時間帯で入浴して頂いている。 入浴されない時は清拭などで清潔を保つようにしている。	入浴は基本的に隔日に午後からタイミングや声をかけ入ってもらえる方から入浴してもらい、希望があれば毎日入浴も可能です。拒否される方や希望があれば本人に合わせた時間帯にしたり、同性介助や二人介助、清拭や足浴をしています。柚子湯や入浴剤を使用しゆっくり入浴を楽しめる支援し、また利用者自身がカレンダーに印をつける事でスムーズな入浴へと繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者一人ひとりのペースに合わせて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容について職員全員が把握し、服薬の都度確認している。 又、薬の変更があればその都度職員全員に周知し、把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事に参加出来る方には、分担して頂いている。行事の時などに嗜好品や楽しみごと等個々の希望を取り入れられるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物やドライブ、外食などに出かけている。 ご家族の協力を得ながら外出できるように支援している。 又、季節に合わせて初詣や花見等の外出も支援している。	天気の良い日には車椅子の方も近所を散歩しています。中庭や裏庭のベンチでおやつや昼食を食べたり、バーベキューをすることもあり、戸外で過ごせるよう努めています。近くのお寺にドライブに出かけたり、初詣や季節には桜の花見や紅葉を見に行き、外食や家族との外食もあり外出を楽しめる支援をしています。	

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が所持して安心される方は所持して頂いています。管理が困難な方はご家族の了解を得て職員が管理しているが、ご本人の能力に応じて使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でして頂いています。年賀状はご利用者一人ひとりに書いて頂きご家族に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをしています。(壁面飾り等) 時間帯や天候に合わせてカーテン等で温度調節しています。	孫のために飾っていたひな人形を利用者が畳コーナーに飾り、季節の生花や中庭に植えられた花や外の景色からも季節感が感じられ、ソファに座って眺めたり洗濯物も干され畳むなど家庭的な雰囲気の中でゆっくり寛がれています。配膳や洗い物のスペースが利用者にとって使いやすい工夫し、食事の準備や後片付けに関わり、気の合う方がテーブルを囲み塗り絵や貼り絵を楽しみ居心地のよい居場所作りに努め、光の調節や温度、湿度に気を配り居心地の良い空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや空いた場所にソファを置き、談話出来る空間を作り、居心地よく過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の馴染みの家具など持ち込み可能である事をご家族様にも説明してテレビや置物、写真などを置いて過ごされています。	各居室にはトイレや洗面所が備え付けられ気兼ねなく使い、利用者はテレビやソファ等自宅ですべての物を持ち込み過しやすいように配置を決めています。幼少時からの家族のアルバムや日記を持ち込み、入居後も日記を書かれたり、好きな人形やぬいぐるみ、手芸の作品を飾り、また自宅への外出時に馴染みの物を持って来られる等、今までの暮らしが継続できるような環境作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・居室には手すりを設置し、段差をなくしご利用者個々の状態に合わせた環境の設備を行い居室やホールの整理整頓をする事で安全を確保しています。		